群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説700日 県政の革命児！

後藤かつみ

県議会だより

vol.14

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町800−24
TEL&FAX 027−343−1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

http://www.ccrgoto.com/

次代を見据えた政策転換を提言

9月定例議会 本会議一般質問に登壇

若者の雇用対策の強化を提言

若年層（15～34歳）を完全失業率が7％を超え、若者を巡る雇用環境はまさに「超氷河期」の様相を呈しています。次代を担う世代にしっかりと「働く場」を提供しなければなりません。

しかし、群馬県は、進的な取り組みが全国的にも高く評価されている若者就職支援機関「ジョブカフェぐんま」ですら予算を減額している状況です。

後藤は、「それでは県独自で雇用対策に取り組む姿勢が全く見えない」と指摘し、体制強化を提言しました。

大澤知事と白熱した政策議論を交わす後藤かつみ

『伸びる芽』を育てる 産業政策への転換を

持続的な雇用の創出のためには、将来を見据え、県独自に産業の「伸びる芽」を育てていくことが必要です。

後藤は、群馬の特徴である豊富な森林資源を活かした自然エネルギー産業を創出するという切り口から提言。具体的には、温暖化対策で数十億円もの補助金をつぎ込んで間伐をしながら、伐採した木の8割が未利用のまま山に放置されている現状を改めるため、未利用木材を石油や石炭に代わる発電燃料等に有効活用することで、林業の活性化だけでなく山間部に発電所や燃料工場など、夢のある産業を創出できると提言しました。

このような取り組みは高知県などで先進的に行われており、後藤も昨年来一貫して群馬県にとっても「伸びる芽」となりうると提言してきました。本年度に入り、上野村で木質ペレット燃料工場の整備が始まるなど、徐々に動きが出つつあります。

未利用間伐材の利用促進策を探り、森林整備の現場を歩き続ける後藤かつみ
（渋川市の現場にて）

人口減少・高齢化を見据えた公共事業の転換を

〈高齢者の「足」をどう確保するのか〉

全国有数の「マイカー王国」である群馬県ですが、10年後には4人に1人、20年後には3人に1人が高齢者（65歳以上）という超高齢化社会を迎えます。

道路をせっせと整備しても、肝心の生活の「足」がないという深刻な事態が間近に迫っていると言えます。

後藤は、バス等の「公共交通」の振興策は道路整備と同様に公共事業の重要な柱として位置付けるという政策転換を早急に行わなければ手遅れになることを指摘しました。

〈道路整備の「ツケ」を誰が負担するのか〉

大澤知事は「7つの交通軸構想」を掲げ、幹線道路の新設整備を精力的に行っています。その一方で、群馬県では既にH10年以降、働いて税金を納める「生産年齢人口（15～64歳）」が急激なペースで減少しています。

今後、整備した道路の維持管理コストの負担が、将来世代に重くのしかかることは確実です。

後藤は、現状でも県道（約3400キロ）を維持管理するために必要な事業量に対し、その半分も予算が確保されていないことを指摘し、新設よりも維持管理にウエイトを置いた公共事業予算に転換すべきことを提言しました。

地域住民と観光客の双方の「足」として活躍する路線バス「ハイカラさん」の取り組みを視察する後藤かつみ
（会津若松市にて）